

東西異根 仏基同心

川崎医療短期大学 一般教養科

田 中 章 文

(平成3年8月27日受理)

A Comparative Study of English and Japanese Proverbs as to Buddhism and Christianity

Akifumi TANAKA

*Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions
Kurashiki, Okayama 701-01, Japan
(Received on Aug. 27, 1991)*

Key words : 仏教とキリスト教, ことわざ比較

概 要

「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」と言われるとすぐにうなずけるが、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と言われると、相手がイエス・キリストであっても、即座に「イエス」とは答えられないだろう。それはコトバが日常の処世訓の領域を越えた意味を持つからである。

国際化が叫ばれて世界が狭くなり、人類がみな「あなたの隣人」だと言われる現在、上記の文の原典である Love your enemies and pray for those who persecute you—N. T. Mathew 5. 44 を読む時に、我々は名言適訳で事足りりとしている場合が多いのではないか。人間のタテマエ、ホンネの糸を織り混ぜて語られる東西異根のことわざを通して、人の心のひだに分け入ってみたいと思う。

1. はじめに

ことわざは人間の英知の結晶である。それは長い歴史の中で定着してきた思想をふくみ、それぞれの民族にとって貴重な生き方の指針となってきた。

ことわざはその内容によって民間伝承、諷刺、教訓などに分けられるが、ここではキリスト教、仏教文化圏から、なるべく宗教的心情を含む句を集めるようにした。しかしなかには時間の経過とともに、原作者名や出典が不明になったものも多い。

キリスト教は唯一絶対の神を信ずる宗教であり、仏教は仏の教えであると同時に、人間が仏になるための教えであるから、両者は本質的に異なるもので、究極の頂点に至る道も途中で交わるはずがない。しかし双方ともに人間の安心立命を願うためのものだという点では通じ合う

面がある。そして同時に共通点を見ていく過程で、逆の相違点が浮きぼりになることもある。

2. 生者必滅

Every man stands as a mere breath!

—O. T. Psalms 39. 5

(人生一息・夢一生・出る息、入る息を待たず
〔因果経〕)

It is as natural to die as to be born.

(生身は死身・生あれば死あり〔楊子法言〕)

They that live longest must die at last.

(生死限りあり、遁るべからず〔曾我物語〕)

We start dying the day we are born.

(生は死の始め)

We never meet without a parting.

(会うは別れの始め・会者定離〔遺教経〕)

一休和尚の歌に「生まれては死ぬるものなり
おしなべて、釈迦も達磨も猫も杓子も」とある

とおり、生死一如なのである。

3. 諸行無常

生者が必滅であれば、現世での盛者必衰もまた理の当然である。

Man is but a bubble.

(人間は泡つぶ一つ・泡沫夢幻・身を観ずれば水の泡〔一遍〕)

Time and tide wait for no man.

(歲月人を待たず〔陶淵明〕)

The tide keeps its course.

(行雲流水〔宗史；蘇武伝〕)

All worldly things are transitory.

(有為転変の世のならい・槿花一日の榮〔謡曲；敦盛〕)

Times change and we with them.

(年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず〔劉延芝〕)

Pleasure and joy soon come and soon go.

(歡喜速やかに来ては去る・黄梁一炊の夢)

The unexpected always happen.

(明日は知らぬ身〔増鏡〕・明日ありと思う心の仇桜……〔親鸞〕)

イエス・キリストは死後の「復活」と永久平和の天国に至る道を示し、釈尊は「輪廻転生」を説いた。

4. 四苦八苦

If there is no resurrection of the dead, then Christ has not been raised.

—N. T. Corinthians 15. 13

「もしも死人に復活がなければ、キリストはよみがえらなかつたであろう」

だから絶対神であるイエス・キリストを信ずる者は死後を思い悩むことはない。神にすがり、神に祈りさえすればよい。天国が待っているのである。キリスト教では「死」は人間が神の意志に反したことから起きた原罪であると考えられるから、人間にはどうすることもできない。そして死に対する「生」もまた神まかせとなる。

Look at the birds of the air : they neither sow nor reap nor gather into barns, and yet your heavenly Father feeds them.

—N. T. Mathew 6. 26

「空の鳥を見るがよい。まくことも刈ることもせず、倉に入れることもない。それなのに天の父は彼らを養っていて下さる」

要は神の国と神の義とを求めればよい。仏教では「生老病死」の四苦に「愛別離苦」「怨憎会苦」「求不得苦」「五蘊盛苦」の四苦を加えて八苦あるとする。生ある限り人間は八苦を背負わされているのだが、死後、運良く極楽に入れても、それは一時であって、再び輪廻転生をくり返していくことになる。だからこの因縁のヒモを断ち切らねばならない。自己への執着を否定し、ヒモを切って離脱すること、それが「解脱」であり、その解脱に達する道を示しているのが「四諦・八正道」であるが、これは出家僧によってしか実践できない難行苦行であるから、一般大衆は苦しみを軽く受け流して明るく生きていくことを考える。

Tomorrow is another day.

(明日は明日の風が吹く〔浮世咄〕)

Poor men go to heaven as soon as rich.

(冥土への道には王はなし〔世話尽〕)

Everything comes to those who wait.

—Disraeli

(果報は寝て待て〔毛吹草〕)

Don't get so anxious that you kill yourself.

(身を殺すほど心配するな)

As long lives a merry man as a sad.

(泣いて暮らすも一生、笑って暮らすも一生)

Let us eat and drink, for tomorrow we die.

—O. T. Isaiah 22. 13

(われわれは食い、かつ飲もう、明日は死ぬのだから)

Let the day's own trouble be sufficient for the day.

—N. T. Mathew 6. 34

(一日の苦勞はその日だけで十分である)

釈尊は語る。「過去を追うな。未来を願うな。過去はすでに捨てられた。そしてまだ未来は来ない。だから現在のことがらを、それがあるところにおいて観察し、ゆらぐことなく、動ずることなく、よく見きわめて完成せよ」また白隠禪師が「一大事は今日只今のことなり」と言う時、「生は苦なり」とする仏教のもとでは、瞬時の快樂を現世に求めるのは容易なことではないようだ。

5. 八正道

悟りの世界へ到達するための一種の倫理的綱領である。

(1) 正見

The eye is blind if the mind is absent.

(心ここに在らざれば視れども見えず〔大学〕・
観の目強く、見の目弱し〔宮本武蔵〕)

(2) 正思惟

Discretion is the better part of valor.

—Shakespeare “King Henry IV”

(賢人は危きを見ず〔世話尽〕)

(3) 正語

A word once out flies everywhere.

(口は禍の門〔法苑珠林〕)

(4) 正業

Better to be beaten than be in bad company.

(渴しても盗泉の水は飲まず)

(5) 正命

Do well and let men say what they want.

(世の取り沙汰は人に言わせよ〔毛吹草〕)

(6) 正精進

Running water is better than standing.

(流水不腐〔呂氏春秋〕)

(7) 正念

Ask, and it will be given you.

—N. T. Mathew 7. 7

(求めよ、そうすれば与えられるだろう)

(8) 正定

The best may amend.

(百尺竿頭一步を進む〔五燈会元〕)

八正道を実行すれば、人間は神か仏になるだろう。しかし厳しすぎる修業に励んだ釈尊は悟達への道は「中道」によるしかないことを知らされた。

Moderation in all things.

(何事にも中備)

The wise take the middle way.

(賢者は中備を守る)

Climb not too high for fear of falling.

(カタツムリそろそろ登れ富士の山)

The orange that is too hard squeezed yields a bitter juice.

(しぼりすぎるとジュースもにがい・過ぎたるは及ばざるに如かじ〔世話尽〕)

道元、栄西ら禅宗系の祖師たちが「難行＝自力本願」を説いたのに対して、浄土門の法然、親鸞らは「易行＝他力本願」を本命として念仏一道、六字の名号である(南無阿弥陀仏)を唱えることによって、極楽浄土に生まれることができる」と説いた。それは煩惱具足の福音であった。Easier said than done. 「言うは易く、行うは難し」を心得ての布教であった。

6. 愛と慈悲

「神は愛である」と聖書は言う。神の愛は絶対であり、人間に対する一方的な愛である。ところでその愛を人間が拡張して、男女の愛(エロス)、友情(フエリア)、親子の愛(ストルゲ)の3つに分類した。だから人間は、自分が好きな人、物などに対して「愛する」という表現を使い、その対象を独占するようになった。一方仏教で「愛」は「渴愛」であり、十二支縁起の中の「無明＝無知」の意味になる。Give him an inch, and he will ask an ell. —Heywood (思う事一つ叶えばまた一つ〔姑気質〕)

The more one has, the more he desires.

—Shakespeare “Macbeth”

(持てば持つほど欲しくなる・塩水は飲むほど
渴く・隴を得て蜀を望む〔後漢書〕)

Content is happiness.

(知足安分・少欲知足)

Of everything too much is hurtful.

(何事も多すぎれば害になる・欲こきや損)

法句経は「愛より憂いを生じ、愛より畏を生ず。愛を離れたる人に憂いなし」と述べている。そして僧良寛は「焚くほどは風がもて来る落葉かな」と無欲を歌っている。

愛は自己への執着心であるから、「色即是空」を唱える仏教にはなじまない。「色」は身体や物であり、それらに固有の名前をつけることによって、美醜、善悪などのレッテルをはり、差別認識を植えつけてきたのである。All men are equal brothers before God 「神の前では人間みな平等」でも、人対人、物の世界になると、(欲しい、惜しい、憎い、可愛い〔譬喩尽])になってしまうのである。

Love is strong as death, jealousy as cruel as the grave.

—O. T. Songs of Solomon 8. 6
(愛多ければ憎しみに至る〔亢倉子〕)

Love and reason do not go together.
(愛と理性は合わぬもの)

愛あれば憎しみが生じ、憎しみのあるところに敵ができるから An eye for an eye, a tooth for a tooth —O. T. Exodus 21. 24 「目には目を、歯には歯を」むき出して、人間は復讐の鬼と化し、修羅場を現出させる。そこでキリストは言う。

But if any one strikes you on the right cheek, turn to him the other also.

—N. T. Mathew 5. 39

(もしだれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい) すなわち「殴られたら撫でかえせ」というのである。

仏は(ホトケ)と読み、こり固まった心のしこりが(ほどけ)ることを意味するから、伝教大師が「怨を以て怨に報せば、怨止まず。徳を以て怨に報せば怨即ち尽く」と語る時、神仏の合一性が見られるわけである。しかし現実はどうか。

「法華と念仏、犬と猿」と言われるとおり仏教は分裂を重ね、「宗旨の争、釈迦の恥」をくり返してきたし、キリスト教での旧教と新教、イスラム教とヒンズー教、エルサレムの「嘆きの壁」をはさんで憎み合うイスラエルとパレスチナ難民など、民族間の争いは止むことがない。やはり現世は絶望的なのか。イスラム教典コーランは言う。「この世の生活は遊びか、たわむれにほかならない。畏れかしこむ者たちには、あの世の住まいこそ最上である」愛がカオスの世界を創造し、慈悲がそれを救済することになる。

The quality of Mercy is not strained.

It droppth as the gentle rain from heaven
Upon the place beneath.

—Shakespeare "The Merchant of Venice"

「慈悲は本質から強制されるものでない。慈雨のごとく天上からあまねく地上に降りそそぐものだ」

ここで言う慈悲は、神が下界の人類すべてをいつくしむ本質的な愛を人対人に当てはめよ、

というわけである。「人のみ渡し渡しておのが身は、岸に渡らぬ渡し守かな」と日本の古歌にあるとおり、抜苦与楽の極致なのである。

Blessed are the merciful: for they shall obtain mercy. —N. T. Mathew 5. 7
(あわれみ深い人はさいわいである。彼らはあわれみを受けるであろう)

The God's will goes slowly, but grinds well.
(天網恢々疎にして漏らさず〔老子〕・人を愛し利する者は天必らず之に福す〔墨子〕)

人の施す慈悲が天に通じれば善果が得られ、それに反して悪業をなせば天罰をき面、因果歴然の結果が返ってくることになる。

As you sow, you shall reap.

(蒔いた種は刈れ・因果応報)

God knows well which are the best pilgrims.

(天道様はお見通し〔孟子〕)

Do whatever you wish that men would do to you, do so to them.

—N. T. Mathew 7. 12

(何事も人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ)

マタイ伝の中の句はいわゆる Golden Rule として名高いものである。同じ慈悲への命題も、英文が「～せよ」という積極的、肯定的な要請であるのに対して、論語でいう「己の欲せざるは人に施すなかれ」では、「～なかれ」という消極的、否定的な禁止であるが、それは表現上の技巧の差ではなくて、東西で異なる人間の根本的な思想の違いによるものなのであろう。

7. 六波羅蜜

「諸悪莫作」=悪はせず、「衆善奉行」=善を施す、といえど道徳的な努力目標である。しかしこの教えを実践するのは至難のワザであるから、なぜそれができないのかを心に問いつめていく時に人間にとっての宗教が生まれてくる。宗教の基本には常に道徳がある。

波羅蜜は「波羅蜜多」、すなわちサンスクリット語のパーラミターの音写であり、生死・煩悩・迷いの世界から悟りの世界へ渡るための手段である。八正道を大乘仏教での一般世人に適用させる指針がこの六試羅蜜であると言えよう。

(1) 布施

人に物を施しめぐるむこと。僧に金銭や品物を施し与えること。僧からは下化衆生。

All came from and will go to others.

(すべては他人から来、もとへもどる)

A candle lights others and consumes itself.
(身を殺して仁をなす・人を助くるは菩薩の行
〔御伽百物語〕)

布施の基本は、仏教では「空」の思想の実践にある。物が余っているから他人に与えるというのではいけない。「本来無一物なれば、諸事において実有我物のおもいをなすべからず」と一遍は教えている。そして聖書では、When you give alms, do not let your left hand know what your right hand is doing. —N. T. Mathew 6. 3 「あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな」と言うのである。布施は最高の難事である。だから「布施だけの経を読む」「仏事供養も布施次第」など、現ナマ拝金主義を笑う句も生まれるわけである。

(2) 持戒

モーゼの十戒に対して持戒は5つ、不殺生戒、不妄語戒、不偷盜戒、不邪淫戒、不飲酒戒。前者は一民族の団体生活を守るための規律で、神から人間への一方的な命令であったが、後者は、人間が理想に向かう習慣性を身につけるためのものであり、生命がけの難行である。だから戒は破らざるをえない。破っては反省し懺悔するのが人間の姿である。

To err is human, to forgive divine. —Pope

(誤りは人の性、ゆるすは神)

Man proposes, God disposes.

—Thomas à Kenpis

(事を計るは人、決めるは神・神のまにまに)

It is never too late to mend.

(行いを改めるのに遅すぎはしない)

十戒と五戒という異質なものを同一カテゴリに入れて考えるのは疑問だが、仏教でも「懺悔には十罪を減す」の句があり、神仏ともに、ゆるしを乞う人間には甘いところがあると思われる。

(3) 忍辱

逆境にあわてず、順境におごらず、迫害、迷

惑に耐えしのぶこと。

After rain comes fair weather.

(雨降って地固まる〔毛吹草〕)

No pains, no gains.

(苦は楽の種・艱忍五両〔俚言集覽〕)

Adversity makes a man wise, not rich.

(艱難汝を玉にす)

No cross, no crown.

(十字架を負わねば栄冠は得られない)

(4) 精進

「人は目標を失ったときに死んでいく」とフランクが言うように、人間が精進をするのは目標があるからだ。しかし「行は万行あり」で、釈尊は最後には「中道」を示したが、キリストは苦しい道を選ぶことをすすめた。

Enter by the narrow gate ;

—N. T. Mathew 7. 7

(狭き門より入れ)

Knock, and it will be opened to you.

—N. T. Mathew 7. 7

(門を叩け。そうすればあけてもらえよう)

Learn not and know not.

(学ばざれば知らず)

精進は信仰の実践であり、信仰はすなわち「進」であり、一步前進することである。

(5) 禅定 (6) 知恵

禅定とは座禅のことで、精神統一のための手段である。そして自己凝視と精神集中の継続が知恵を生み、「空」の本質理解に近づけるとしている。ではキリスト教文化に育てられた西欧人はどうか。禅=Zen としてとり組む人があるにはあるが、生活に根ざすところまではいっていない。だからここでは、彼らにとって深い思索がどうなるのかを考えてみるしなない。

Wisdom is better than riches.

(知恵は万代の宝)

The kingdom of God is in the midst of you.

—N. T. Luke 17. 21

(神の国は実にあなたがたのただ中にあるのだ)

To get wisdom is better than gold ;

To get understanding is to be chosen rather than silver. —O. T. Proverb 16. 16

(知恵を得るのは金を得るのにまさる。悟りを得るのは銀を得るよりも望ましい)

No divinity is absent if prudence is present.

(分別あれば神もある)

究極の知恵とは何か。

「人に生まるるは難し。やがて死すべき身の
今のちあるは有り難し」一法句経

8. ま と め

庶民が語りついできたことわざを材料として、東西それぞれの主流である二つの宗教を比較すると、かなり独断的な分類と思いついた取捨選択が必要であった。したがってそれに関連するいくつかの事項を次に補足説明する。

1. 「神仏は水波の隔て」と言われて、ほとんど差が無いとされているが、ここに扱った神はいわゆる God (キリスト教での全能の神) であって、日本人にとっての神道における「神」ではない。神道は(1)神社神道系、(自然発生的、祭礼重視、政治的強者による利用)、(2)教派神道系(教祖とその教えが教団を成立させている)、(3)新教派(戦後次々に生まれた新教群)などである。日本人の多くは人生の節目である誕生、入学、結婚などでは、通過儀礼的に神社の鳥居をくぐり、人生最終段階ではお寺さんの世話になる。大晦日には寺の鐘をきいて煩惱をはらい清め、新年と同時に神社へ駆けこんで行って、お賽銭をあげ、「商売繁昌」「家内安全」を祈る。神道には、お金で現世利益を買う自動販売機みたいなどころがある。神道をとり上げなかった理由である。

2. 内容の組み立ては仏教用語に従ったが、大宇宙との隔合を願う大日如来の密教は直接にはとり上げず、大筋では大乘仏教での一般的な用語を用いた。

3. 同じ意味を持つ英文のことわざは多いが、厳選して1文にし、それに匹敵する日本語は、場合によってはいくつか並記した。

4. 訳文は口語体、文語体の両方をふくんでいるが、これは最も広く世間に通用している表現を採用したためである。

文 献

- 1) 井上義正編：英米故事伝説辞典、富山房(1972)
- 2) 鈴木棠三・広田栄太郎編：故事ことわざ辞典、同左(続)、東京堂出版(1972)
- 3) 有原末吉編：東西名言辞典、東京堂出版(1972)
- 4) 諸橋轍次著：中国古典名言事典、講談社(1972)
- 5) 諸橋轍次著：孔子・老子・釈迦 「三聖会談」講談社(1982)
- 6) 山本忠尚監修：日英ことわざ事典、創元社(1988)
- 7) 篠田武清：英語の諺・古言の研究、篠崎書林(1956)
- 8) 中村 元編：仏教語源散策、東京書籍(1977)
- 9) 増原良彦：釈迦の読み方、祥伝社(1982)
- 10) 瀬戸内寂聴編著：仏教の事典、三省堂(1989)
- 11) 遠藤周作編著：キリスト教の事典、三省堂(1989)
- 12) 三枝充 恵：仏教入門、岩波書店(1990)
- 13) 和英対照仏教聖典、仏教伝道協会(1981)
- 14) 坂村真民：一遍上人語録 捨て果てて、大蔵出版(1984)
- 15) 日本聖書協会：聖書、日本聖書協会(1990)
- 16) HOLY BIBLE. World Bible Publishers
- 17) Ronald Ridout & Clifford Witting : English Proverbs Explained. Pan
- 18) David Kin : Dictionary of American Maxims. Philosophical Library
- 19) David Kin : Dictionary of American Proverbs. Philosophical Library